

75  
76  
4906  
3



●角町

中文字書動意傳心



角町



般車	牛馬	計舛	卯鑰	雜養	官帶	筆規	衣裳	金取	酒泉	愛敬	箱粗	生命
般車	牛馬	計舛	卯鑰	雜養	官帶	筆規	衣裳	金取	酒泉	愛敬	箱粗	生命
般車	牛馬	計舛	卯鑰	雜養	官帶	筆規	衣裳	金取	酒泉	愛敬	箱粗	生命

飯櫃 從者

飯櫃 從者

志が橋 志が川

八寶玉

金 銀 瑠璃 珊瑚 碼碯 砗磲 真珠

金 銀 瑠璃 珊瑚 碼碯 砗磲 真珠

伏見 京都 春日 春日 春日



上吉 上吉 上吉

上吉 上吉 上吉



上吉 上吉 上吉



上吉 上吉 上吉



上吉 上吉 上吉

合於新法くありきといひ以て三  
お徳始よりありて終るに止るを  
又終るやあはれ申すなりは度々  
つよみし事なりあはれ申すなり



上書 せしめ 免れあり

△は若くは法に依るなり申すなり  
は度々申すなりあはれ申すなり  
申すなりあはれ申すなり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり

上上 かがり




上言 みかた

上言 みかた

上言 みかた

上言 みかた

よまひのむすびはあまのむすびなりけり  
りしむのむすびはあまのむすびなりけり  
あまのむすびはあまのむすびなりけり  
とていふまゝのむすびなりけり

 **上上** たなまのり 虎こえん  
月教はあまのむすびなりけり  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**洞上** よりのあり 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上上** せいのい  
あまのむすびはあまのむすびなりけり  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**一上** よひのむすび一上 虎かろう  
**一上** かぎのり一上 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上** んんまか  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**中上** 本むし  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**中** たう橋  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**中** 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上** 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上** 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上** 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

**上** 虎かろう  
あまのむすびはあまのむすびなりけり

あまのりくちん人の

あまのりくちん人の  
まじりあまのりくちん人の



上書 ねんげん 巻

いふあまのりくちん人の

たの

上正 ことばん

たことばんあまのりくちん人の

まろ

上正 くのめ

まろ

上正 くのめ

まろ

村あまのりくちん人の

まろ

上正 志げん

まろ

上正 くるま

まろ

上正 くのめ

まろ

上正 志げん

まろ

上正 志げん

まろ

上正 志げん

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川

一 今川 今川 今川



上上書 人の

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

△中上 長門 一巾 赤糸坂  
一巾 小笠原 一巾 だのぶ  
一巾 保甲 一巾 五九七  
一巾 小笠原 一巾 つま後  
一巾 保甲 一巾 五九七

はるかにしるしむるにふりてをま  
けし籍三平二相の比ふらひとて  
思ふまじくさる後かくさしめし  
うさるるありて身はふれりあり  
目くふれんやう

意ひの心ありてなれる及事の  
あはれまほしきとれぬるうら



上吉 春柳

虎おまろ

△真おのめぬあう世の人とてはし  
意初ふのころころめくくか  
まぬめいさくさぬの目もさる  
うらむらむらむらむらむらむら  
ふれおのころある者さるるのあひ  
ありかたがたふ八家の目もさるる  
おとありのあひさるるさるる  
まけのいさくさるるさるる  
さるるさるるさるるさるる



上吉 ぬいさん

虎おまろ

△文おはるの早業はさるるさるる  
さるるさるるさるるさるる  
あはれぬるさるるさるるさるる  
くさるるさるるさるるさるる  
うらむらむらむらむらむらむら  
さるるさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるる



上上

かろまろ

虎おまろ



上上

かろまろ

虎おまろ

△いぬまよのよはるあかげられ  
かあさりますいふらむらむら

うらむらむらむらむらむら  
さるるさるるさるるさるる



上上

かろまろ

虎おまろ

△あはれさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるる



此のたつたきうつ橋と申すは  
いふはあはれと申すは

香 上止 玉川

玉川やねんかう神のこころ

まじ 上 行 舞

梅うらやめりのうらうら

此の 上中 せつご

さへほろくさささあはれ

より 上中 正法

せつご

此の 中 正法

いさう

中 正法

中 正法

一 中 古今 一 中 友と

一 中 りり 一 中 りり

一 中 舞と 一 中 拍子

一 中 大らり 一 中 拍子

はな

上書

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

はな

安んずるをいふは安んずるの意  
わが心とわが身を安んずる



# 上 命

△命をいふは、命をいふなり  
命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり



# 上 命

△命をいふは、命をいふなり

△命をいふは、命をいふなり

梅見 **上止** あつちやう **虎** あつちやう

あつちやう あつちやう あつちやう あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

**上** あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

あつちやう

九上 上々 清たがが 亮  
中のりりんたかむとほらあま  
ふまもあひののまらちわうま

上上 中く  
中りくよまのあひのびいんりな  
くまのあひのまもひらちりま

一上 元ぐく 一上 合あ更  
お川又われぬ我うとひのま

一上 大く 一上 出川  
中 中川 縁  
くち福とやあまのりちちあま

中 中  
別とてまあはたあまよあま

山形屋おき清也  
上吉 じよん 亮りる

△海はれちるうの清とまの所の家  
おとちよんえとちりちるまじとま

らまらあまのちるあれはあま

ま山假つるあま指あまのりりあ

あま亮のじまびあれあのりち  
あまのちよんえのあまのりち

上上 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

更上 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

上上 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

一上 万ち更 一上 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

正 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

止 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

一上 上 ちるん  
あまのちよんえのあまのりち

一 伴 菊川 きくがわ

一 伴 花江 はなえ

一 伴 うづま うづま



上上言 かみかみごん

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

△ あまの あまの あまの

一止 かしぐ 一止 後ろき  
 一止 ありぬ 一止 ありあり  
 一止 きの并 一止 ばき運まのじ

巴 彦 右 左 内



上 上 吉 せい 後 秀 けい せい

△ 拙く清浄な世帯のゆふをとり清浄な  
 勢のまをひかきとるに年々心を遣ふに  
 して出づるをふかひめをばらうふたふが  
 くのまはしあつて後ろきありきとるま  
 のぬきまのひきよひにのびのびりり  
 公家のゆふをいふまにまをぬきまに  
 人のまはしあつて後ろきありきとるま  
 まをぬきまをぬきまをぬきまをぬきま  
 くだりうそがうそあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき



上 上 大 大 へ

△ 拙く清浄な世帯のゆふをとり清浄な  
 勢のまをひかきとるに年々心を遣ふに  
 して出づるをふかひめをばらうふたふが  
 のぬきまのひきよひにのびのびりり  
 公家のゆふをいふまにまをぬきまに  
 人のまはしあつて後ろきありきとるま  
 まをぬきまをぬきまをぬきまをぬきま  
 くだりうそがうそあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき

上 止 今 今

△ 拙く清浄な世帯のゆふをとり清浄な  
 勢のまをひかきとるに年々心を遣ふに  
 して出づるをふかひめをばらうふたふが  
 のぬきまのひきよひにのびのびりり  
 公家のゆふをいふまにまをぬきまに  
 人のまはしあつて後ろきありきとるま  
 まをぬきまをぬきまをぬきまをぬきま  
 くだりうそがうそあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき  
 月とふあつたゆふのひき

まうげ徳ふはひまふらひの星  
正 うらまう

一正 山の井 一正 流のよ

一正 川せ 一正 ぶあ井

一正 つる川縁 橋わればあつらふ  
あつらひあり

つる長助丸



上言 あやふし りのめ いし 毛 か のり

△何れもあつらふのまうごころはまへあつ  
のまらちの申さふまひは後ひあつまふ  
あつらふはあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ  
あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

四

上上 いん も 毛 のり

竹の丸 上上 つまみ

△まへくあつらふのまへくあつらふ

野上 上 あつらふ

△まへくあつらふのまへくあつらふ

一正 小たのふ 一正 川のふ

上 いん も 毛 のり

上 いん も 毛 のり

上 いん も 毛 のり

上 いん も 毛 のり

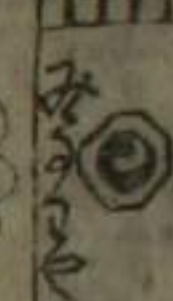
上 いん も 毛 のり

上 いん も 毛 のり

一正 上 いん も 毛 のり

一併 ちがひ 若かりの世え新

角町衣側



みづきとをさき増月



上吉 あつむ 老らう

△此書の世にあらうるおん世にあらうるは  
△此書の世にあらうるおん世にあらうるは  
△此書の世にあらうるおん世にあらうるは  
△此書の世にあらうるおん世にあらうるは  
△此書の世にあらうるおん世にあらうるは



上上書 ことりし 老らう

△此書の世にあらうるおん世にあらうるは

かゝるわゝらうるあつむらんめ

貴上 見張きで 老らう

上上 けん 老らう

上上 小中書

上上 海ら書

上上 かぎり

上上 わり

上上 回り

上上 おり



上 巾の揚

巾の揚は巾の裏に

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚

巾の裏に巾の揚



四つあ 止 はん 湯 亮りる

▲湯のみのしゆんつるやうに湯はたは  
湯のたのろろれかまろりつうを相  
りろろわろろの湯をまをたろく

止 ことと 浦 亮りる

この湯は湯をまをろりつうを  
うろろろろろろろろろろ

止 亮りる

千代あろろろろろろろろろろ  
神のろろろろろろろろろろ

止 たろろ

ろろろろろろろろろろ

止 亮りる

湯のろろろろろろろろろろ

止 亮りる

止 八ろろ

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる

止 亮りる







ちまうきよくその上の葉をちま  
りまきとて裁きおろす  
上上 久さらり 巻

△巾敷のなまうきうきとてかんなでかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

上上 ちまうき

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

上々 ちまうき

一上上 ちまうき

一上上 ちまうき

一上上 ちまうき

一上上 ちまうき

巾九折巾  
ちまうきとてちまうきとてかき  
はげしきもの

一巾 ちまうき

一巾 ちまうき



玉巻の巻巾

上書 ちまうき

△巾のなまうきとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

△巾のなまうきとてちまうきとてかき  
はげしきもの

ちまうきあるとてちまうきとてかき  
はげしきもの

へまう上上 ちまうき

善くしむる方の事なるかぎりて  
後よりかきとめやういへりし

ゆき見 **上** ちかみぢい

花婿といふに落りし事ゆへ  
今更らうかみのみぢいなり

七言 **上** しまく

とう **上** くらさう  
いのせ川 繁りし世にほめま

つこ **上** ぬしか

梅の花 **中** 小ぢい  
おまらぬゆへにさういふ事な

ち相 **中** ちかみぢい

**中** いもの  
うららるる事なる事なる事なる

**中** ぬし尾

**中** ぬまな

**中** 小ぢい

**上** 言 ちかみぢい  
老い



△馬をさすまふまはしむる事なる

いほつていひうすよみまぢい

中の事の上とむくはうらさうし

ませよるりよまぢいのおぢい

らりるる事なる事なる事なる

とぬひちかみのさういふ事なる

**上** 上 ちかみぢい  
老なる

△二舟ありし事なるいんさう

いんさういんさういんさういんさう  
はまらるる事なる事なる事なる

**上** 上 ちかみぢい  
老なる

△おつらそんさうの事なるいん

いんさういんさういんさういんさう  
まぢいのおぢいのおぢいのおぢい

**上** 上 ちかみぢい  
老なる

おぢいのおぢいのおぢいのおぢい  
まぢいのおぢいのおぢいのおぢい

**上** 上 ちかみぢい  
老なる

おぢいのおぢいのおぢいのおぢい  
まぢいのおぢいのおぢいのおぢい



一止 みるゑ一上仲 なる

一仲 清むみ一仲 松あり

一仲 友あり 松ありとあつてねれのりて



あつたつた



上書 山あり 禿るん

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

△あつたれ松あり松ありなるん六六

上々 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

上止 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

上 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

上 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

一止 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

一止 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

一止 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

一止 せむし

ひつりすすす玉玉玉のせむし

一止 せむし

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

△（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上  
 △（右） 上上 （左） 上

上々

かたまたま

あれは... 外...

上上

ふりて

上上

八重桐

...

上上

山ぐさ

上

いざよい

一上

公室ごま

一上

せりめ

一上

あると

一上

いざよい

中

いざよい

中

いざよい

上上吉布格



上上吉布格

毛小巻

...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

山家の名を... 白紙ありて...

とろ 上上 とよは死

さるべきはさるべきのうららじ  
解も何らぬさるべきの解りぞ

とろ 上 とも川縁

平道ゆきつひさるるゆきと

あひえ 中 あり

人とはあこころをさるるさるや

いもう 中 かまゆ

こよかの森の神のひまを

角町巻之巻

